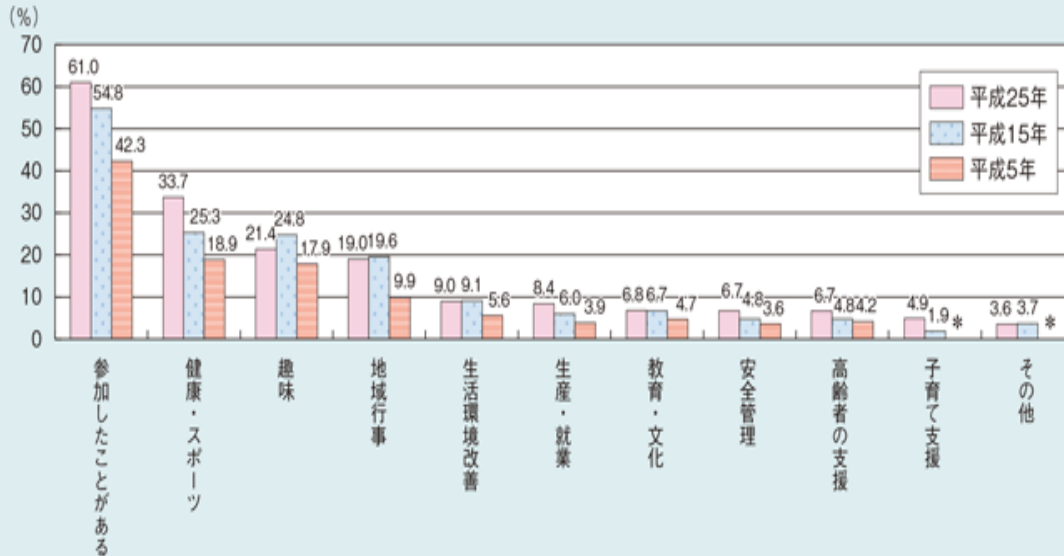


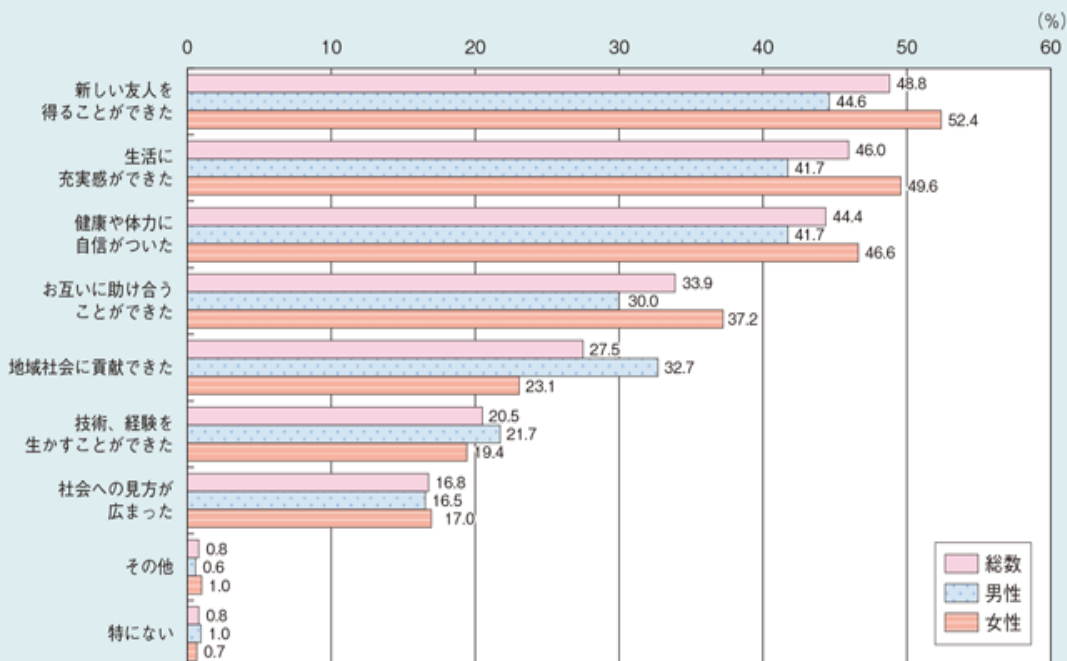
高齢者教育

図1-2-31 高齢者のグループ活動への参加状況（複数回答）



資料：内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」（平成5年、15年、25年）
 (注1) 調査対象は、全国の60歳以上の男女で、この1年間に行った活動について聞いたもの。
 (注2) *は、調査時に選択肢がないなどで、データが存在しないもの。

図1-2-32 高齢者のグループ活動参加による効果（複数回答）



資料：内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」（平成25年）
 (注) 調査対象は、全国の60歳以上の男女。回答条件は過去1年間にグループ活動に参加し、その満足度を回答した者。

図1-2-33 (1) 参加したい団体と参加している団体（複数回答）

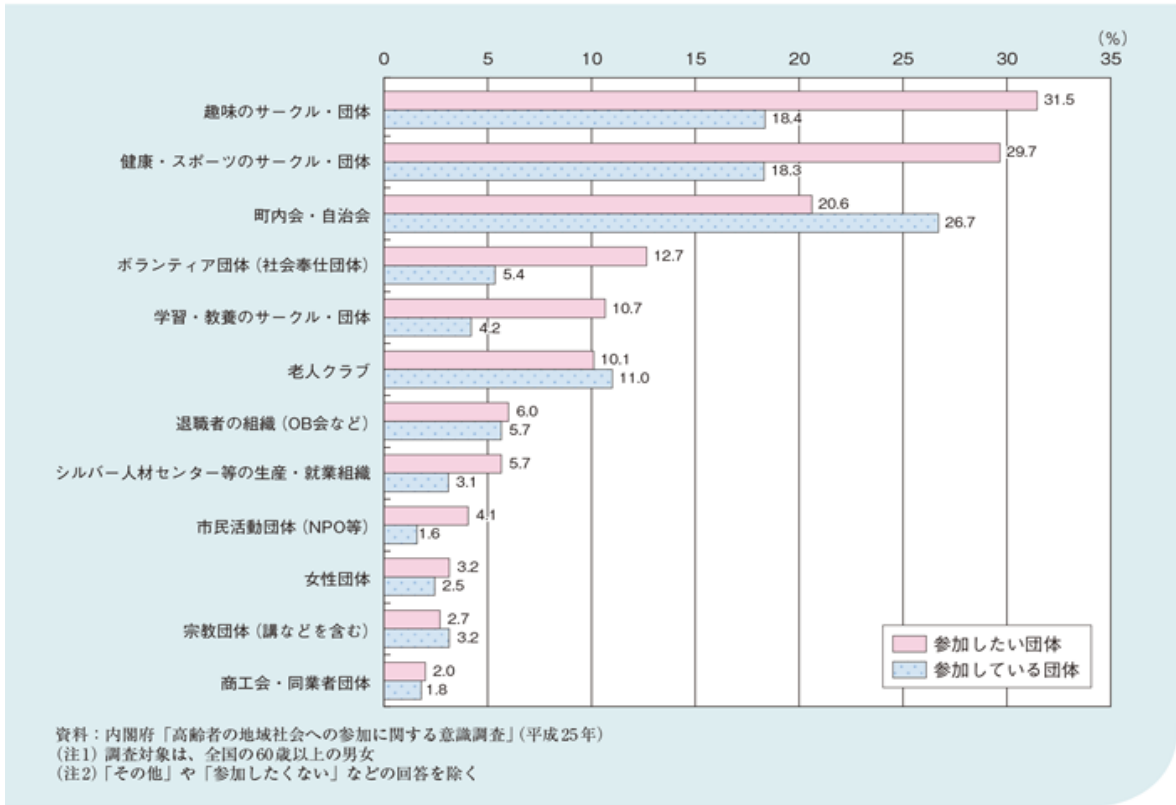


図1-2-33 (2) 参加している団体（複数回答）

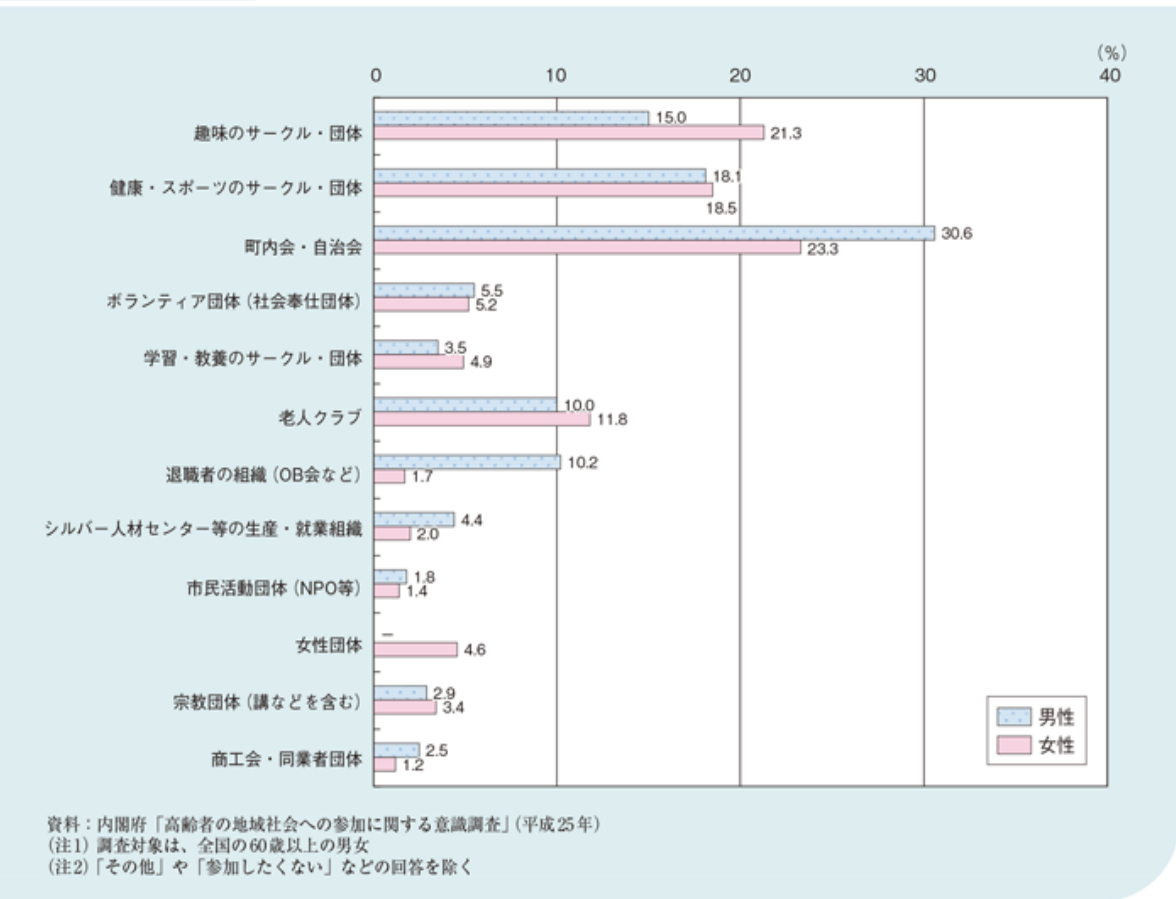
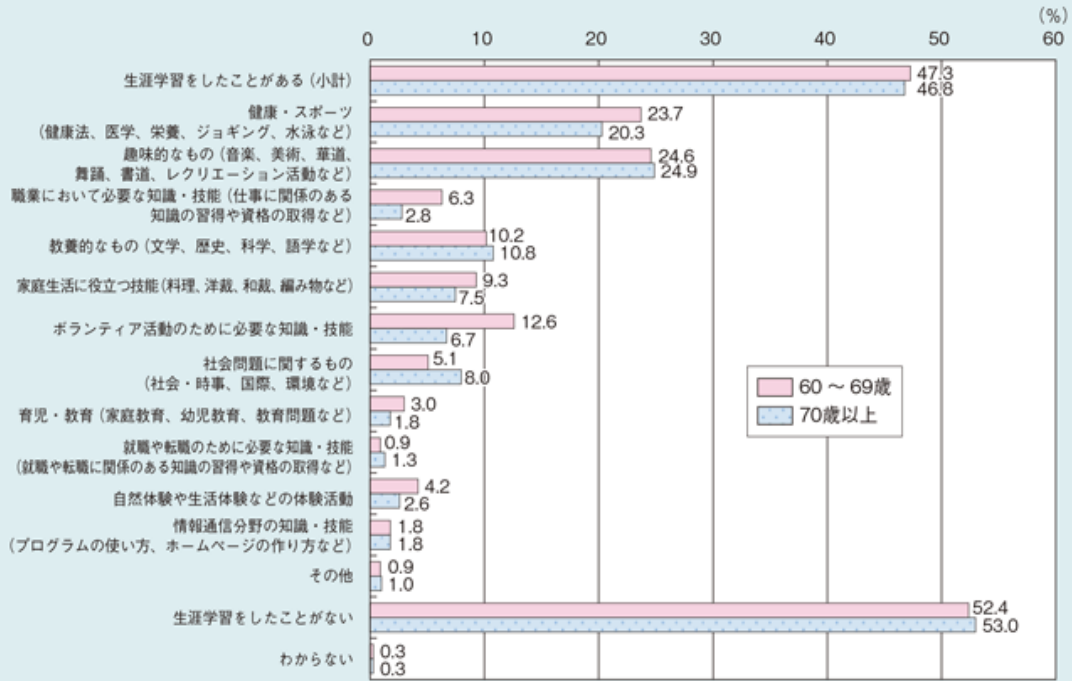
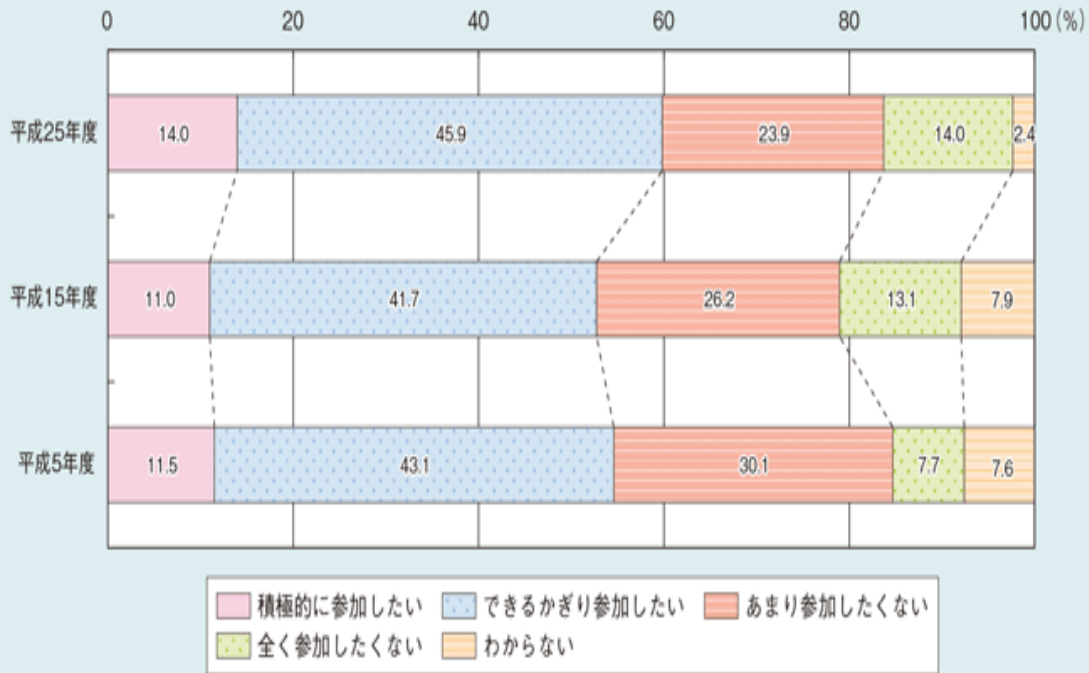


図1-2-34 高齢者が行っている生涯学習（複数回答）



資料：内閣府「教育・生涯学習に関する世論調査」(平成27年)
 (注) 調査対象は全国20歳以上の日本国籍を有する者だが、そのうち60歳以上の回答を抜粋して掲載

図1-2-35 若い世代との交流の機会の参加意向



資料：内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」(平成25年)
 (注) 調査対象は、全国の60歳以上の男女

2 近所づきあいや地域のつながりに関する事項

(1) 近所づきあいの程度 (Q7)

「ふだん、近所の人とどの程度の付き合いをしているか」について尋ねたところ、総数では「親しく付き合っている」が38.9%と最も高く、「立ち話をする程度」が30.1%、「あいさつをする程度」が24.9%、「付き合いはほとんどない」が5.9%となっている。

都市規模別にみると、規模が小さくなるほど「親しく付き合っている」が高くなっている。

性別でみると、「あいさつをする程度」は女性より男性で、「親しく付き合っている」「立ち話をする程度」は男性より女性で高くなっている。

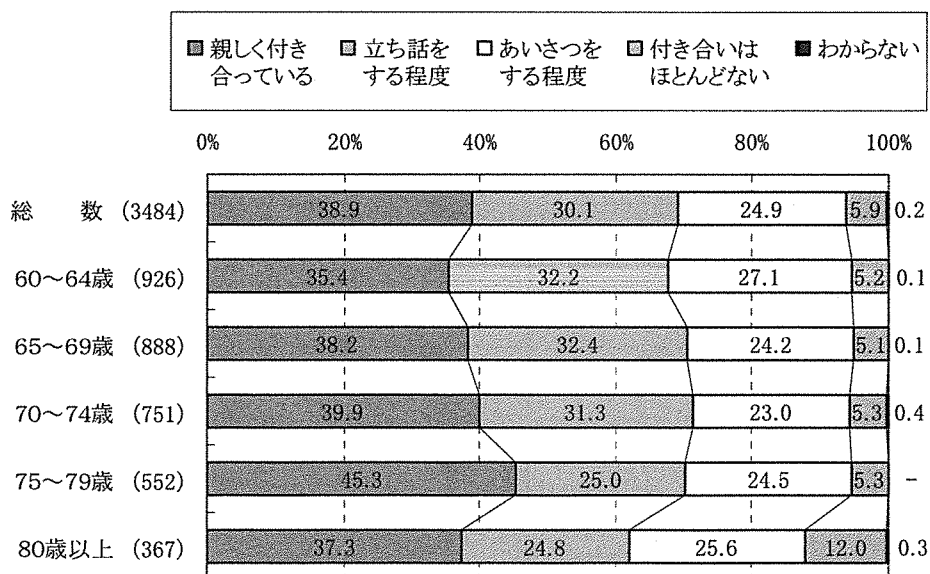
年齢層別にみると、75～79歳では「親しく付き合っている」が45.3%、80歳以上では「付き合いはほとんどない」が12.0%とそれぞれ他の年齢層より高くなっている。

同居形態別にみると、単身世帯では「付き合いはほとんどない」が11.9%、夫婦二世帯では「あいさつをする程度」が28.2%、二世帯世帯では「立ち話をする程度」が33.3%、三世帯世帯では「親しく付き合っている」が49.6%とそれぞれ他の程度より高くなっている。

現在の収入別にみると、収入が低くなるほど「付き合いはほとんどない」がやや高くなる傾向がみられる。

健康状態別にみると、良い(計)では「親しく付き合っている」が44.2%であるのに対して、良くない(計)では31.3%と低くなっている。

図2-1 近所づきあいの程度 (Q7)

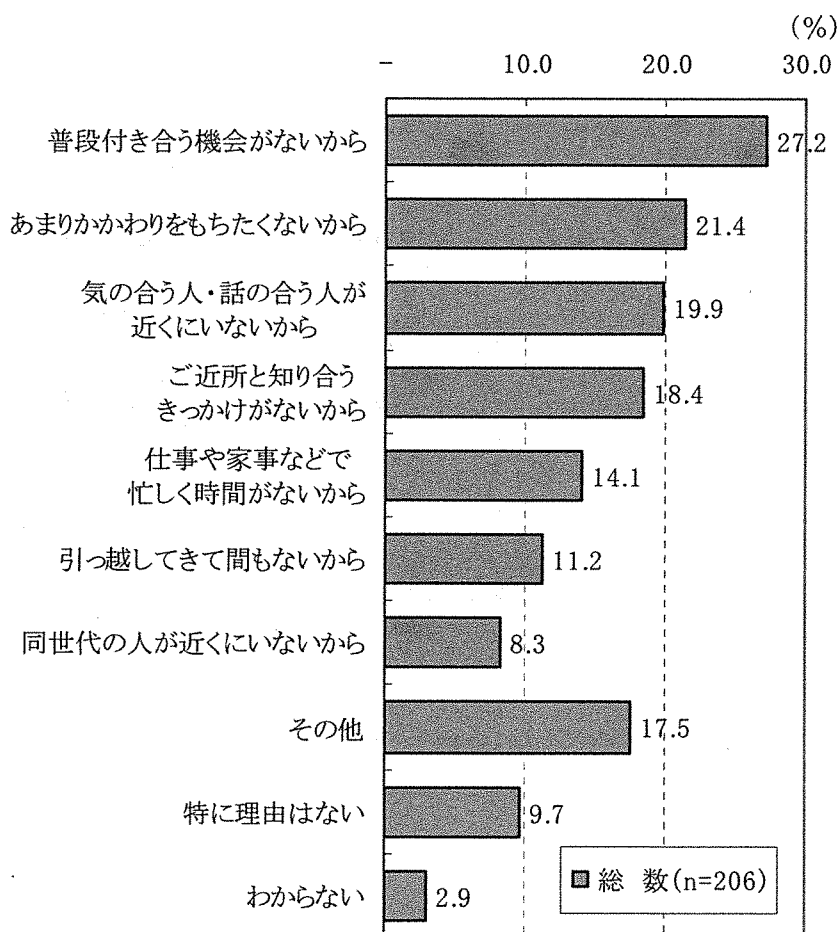


(2) 付き合いがほとんどない理由 (Q7SQ)

Q7で近所付き合いはほとんどないと答えた人に、その理由を尋ねたところ、「普段付き合い合えないから」が27.2%で最も高く、「あまりかかわりを持ちたくないから」が21.4%、「気の合う人・話の合う人が近くにいないから」が19.9%、「ご近所と知り合うきっかけがないから」が18.4%、「仕事や家事などで忙しく時間がないから」が14.1%と続いている。

※ 該当数が少ないため、総数のみ記述した。

図2-2 付き合いがほとんどない理由 (Q7SQ M.A.)



(3) 地域のつながりの必要性 (Q8)

「暮らしの中で地域のつながりは必要だと思うか」について尋ねたところ、総数では「とても必要だと思う」が 60.4%で最も高く、「どちらかと言えば、必要だと思う」が 33.2%となっており、「とても必要だと思う」と「どちらかと言えば、必要だと思う」の合計は 93.6%に達する。一方、「どちらかと言えば、必要ないと思う」が 3.8%、「必要ないと思う」が 1.4%となっており、「必要ないと思う」と「どちらかと言えば、必要ないと思う」の合計は僅か 5.2%となっている。

都市規模別にみると、規模が小さくなるほど「とても必要だと思う」と「どちらかと言えば、必要だと思う」の計がやや高くなる傾向がみられ、町村では 95.8%となっている。

性別でみると、目立った差はみられない。

年齢層別にみると、80歳以上では「とても必要だと思う」と「どちらかと言えば、必要だと思う」の計が 88.3%と低くなっている。

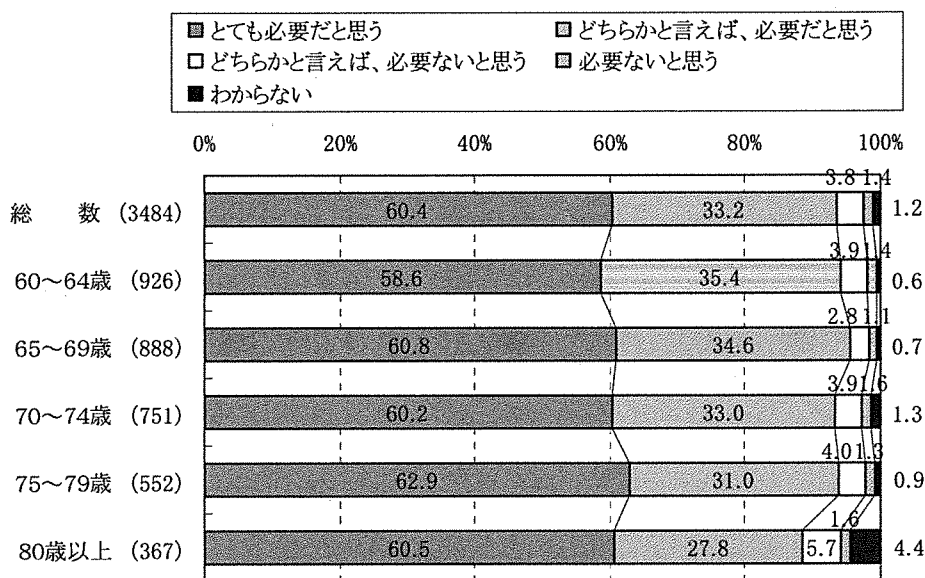
同居形態別にみると、単身世帯では「とても必要だと思う」と「どちらかと言えば、必要だと思う」の計が 88.5%となっているのに対し、三世帯世帯では 96.0%と高くなっている。

現在の収入別にみると、収入が高くなるほど「とても必要だと思う」と「どちらかと言えば、必要だと思う」の計がやや高くなる傾向がみられる。

健康状態別にみると、状態が良いほど「とても必要だと思う」と「どちらかと言えば、必要だと思う」の計がやや高くなっている。

近所付き合いの程度別にみると、付き合いの親密度が増すほど「とても必要だと思う」と「どちらかと言えば、必要だと思う」の計が高くなる傾向がみられ、親しく付き合っているでは 97.9%と高くなっている。

図 2-3 地域のつながりの必要性 (Q8)



(4) 地域のつながりの状況 (Q9)

「住んでいる地域には、地域のつながりはあると感じるか」について尋ねたところ、総数では「とても感じる」が42.4%と最も高く、「少し感じる」が34.6%となっており、「とても感じる」と「少し感じる」の合計は77.0%に達する。一方、「あまり感じない」が17.9%、「感じない」が3.7%で、「感じない」と「あまり感じない」の合計は21.6%となっている。

都市規模別にみると、規模が小さくなるほど「とても感じる」と「少し感じる」の計が高くなっており、小都市では83.4%、町村では87.8%に達している。

性別でみると、目立った差はみられない。

年齢層別にみると、目立った差はみられない。

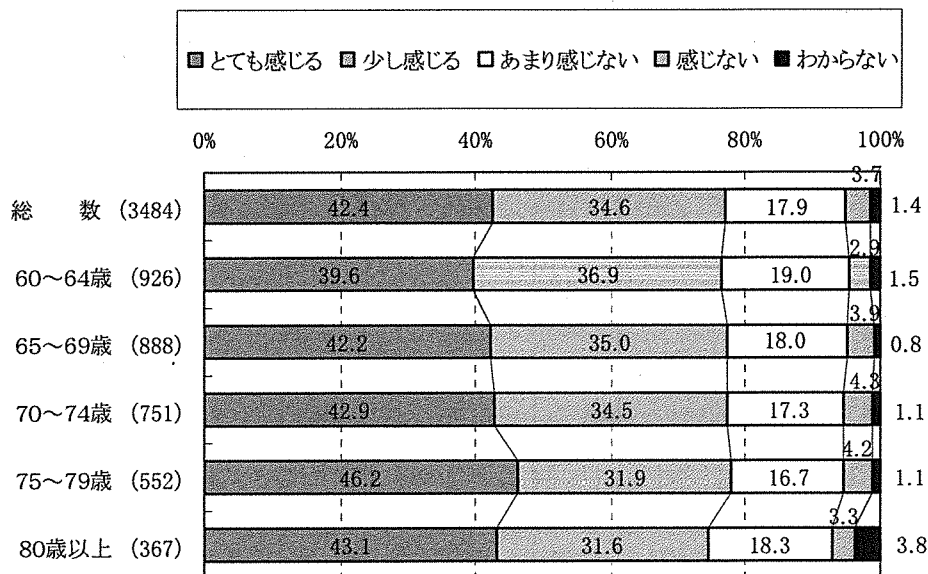
同居形態別にみると、単身世帯では「とても感じる」と「少し感じる」の計が64.9%と低くなっているのに対し、三世帯世帯では84.8%と高くなっている。

現在の収入別にみると、25万円～30万円未満では「とても感じる」と「少し感じる」の計が82.0%と高くなっている。

健康状態別にみると、良くない(計)より良い(計)で「とても感じる」と「少し感じる」の計が高くなっている。

近所付き合いの程度別にみると、付き合いの親密度が増すほど「とても感じる」と「少し感じる」の計が高くなっている。親しく付き合っているでは92.8%と高くなっているのに対して、付き合いはほとんどないでは26.7%と低くなっている。

図2-4 地域のつながりの状況 (Q9)

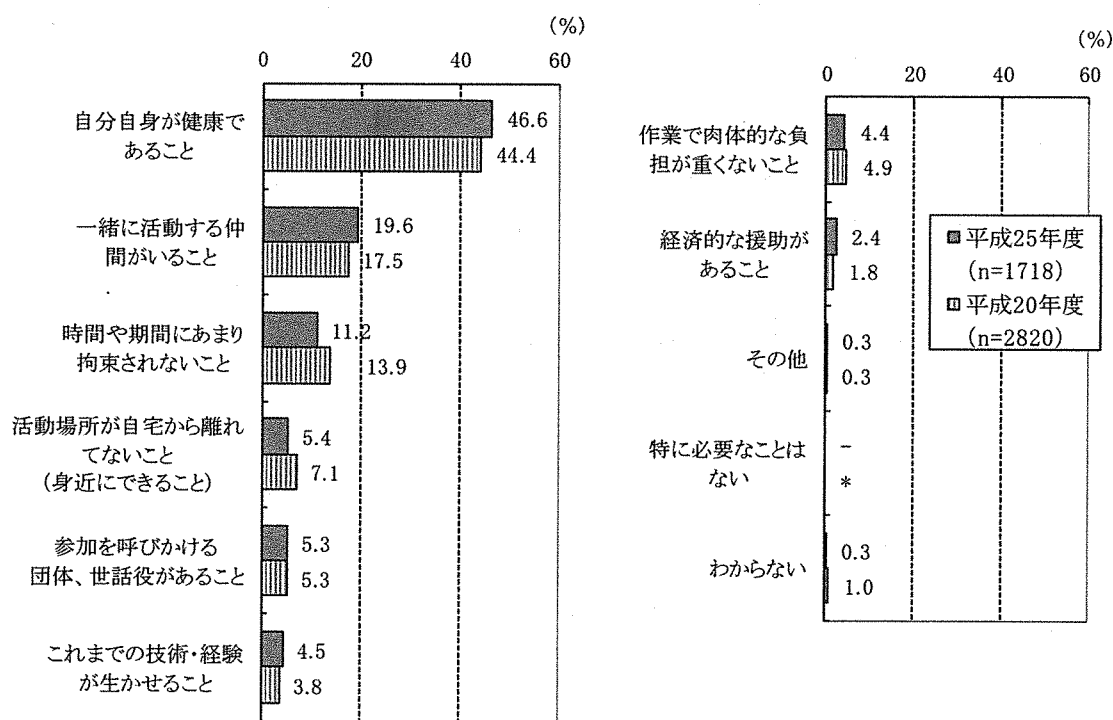


(2) 地域活動を行うために最も必要な条件 (Q12-SQ1)

地域の奉仕活動に実際に参加するために必要だと思われる条件 (Q12・複数回答) で1つ以上答えた人に「そのうち、最も必要だと思うことを1つだけお答えください」と尋ねたところ、総数では「自分自身が健康であること」が46.6%で最も多くなった。以下、「一緒に活動する仲間がいること」が19.6%、「時間や期間にあまり拘束されないこと」が11.2%、「活動場所が自宅から離れていないこと」が5.4%、「参加を呼びかける団体、世話役があること」が5.3%などとなっている。

平成20年度調査と比較すると、特に大きな変化はみられない。

図3-2 時系列にみた地域活動を行うために最も必要な条件 (Q12-SQ1)



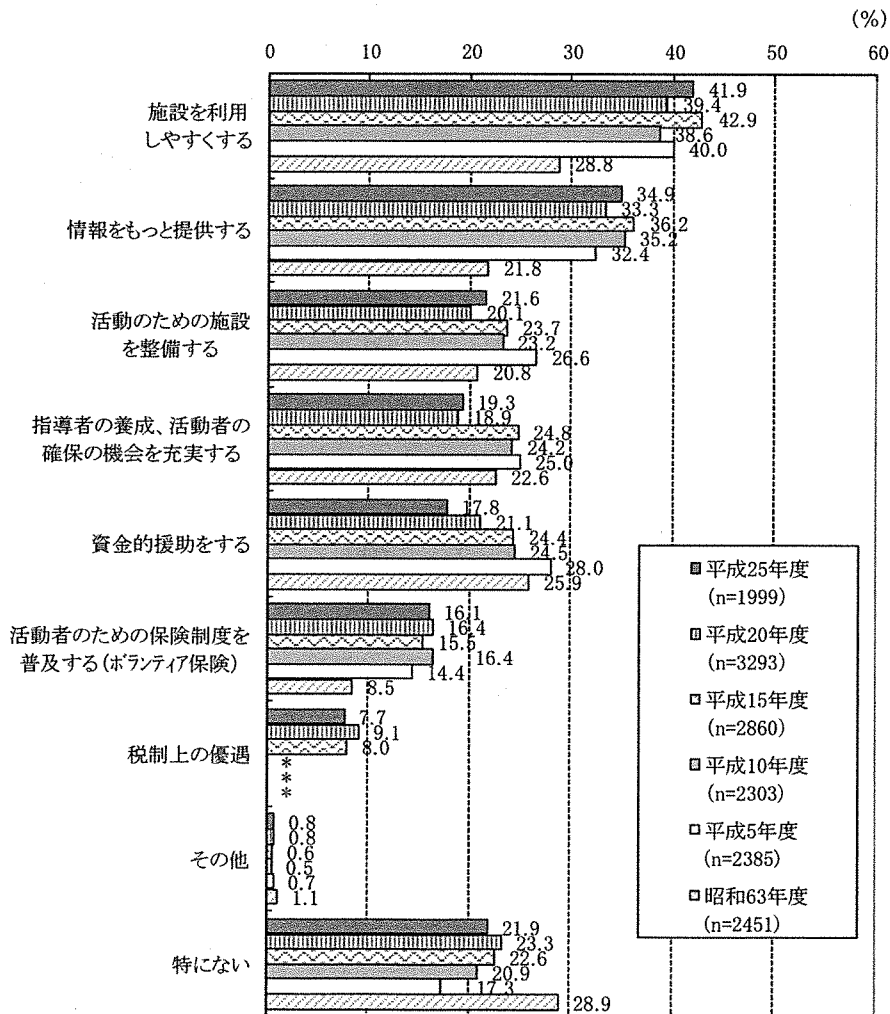
(注：*は、調査時に選択肢がないなどで、データが存在しないもの。)

(4) 高齢者が地域活動に参加する上での国・地方公共団体に対する要望 (Q14)

「高齢者が地域のための奉仕的な活動に参加する上で、国や地方公共団体に対する要望としては、どのようなことがありますか」と尋ねたところ、総数では「施設を利用しやすくする」が41.9%で最も高く、以下、「情報をもっと提供する」が34.9%、「活動のための施設を整備する」が21.6%、「指導者の養成、活動者の確保の機会を充実する」が19.3%、「資金的援助をする」が17.8%などとなっている。

時系列にみると、「資金的援助をする」が低下傾向にある。

図3-4 時系列にみた高齢者が地域活動に参加する上での国・地方公共団体に対する要望 (Q14 複数回答)



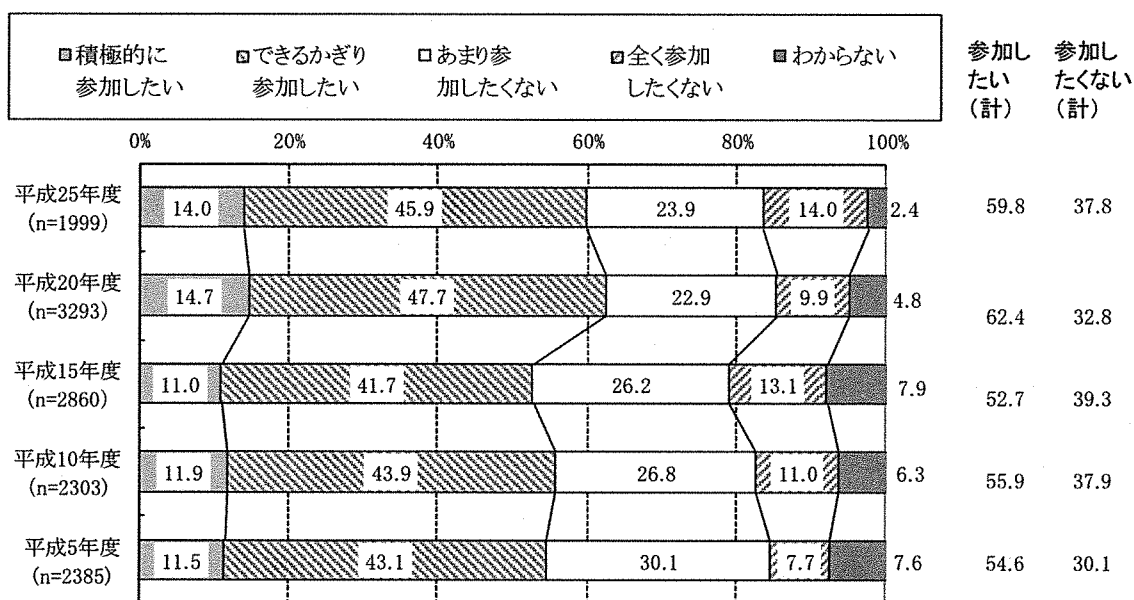
(注：*は、調査時に選択肢がないなどで、データが存在しないもの。)

(2) 若い世代との交流への参加意向 (Q16-1)

「あなたは、若い世代との交流の機会があった場合、どうされますか」と尋ねたところ、総数では「積極的に参加したい」が 14.0%、「できるかぎり参加したい」が 45.9%、「あまり参加したくない」が 23.9%、「全く参加したくない」が 14.0%となっている。

平成 20 年度調査と比べると、「参加したい (計)」(「積極的に参加したい」+「できるかぎり参加したい」の合計) はやや低下している。

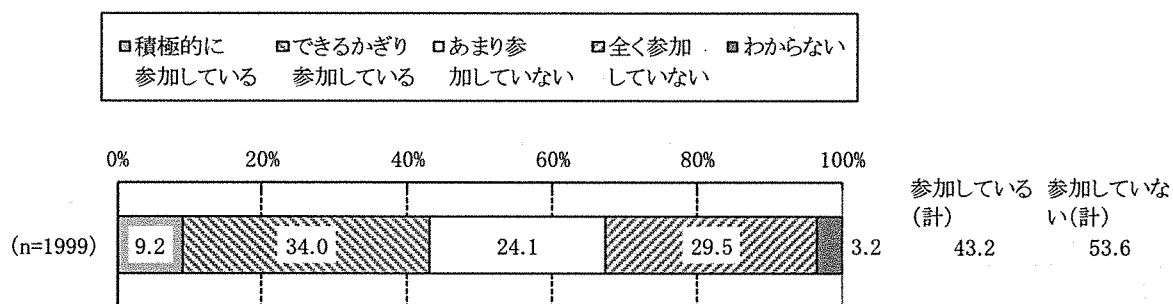
図 4-2 時系列にみた若い世代との交流への参加意向 (Q16-1)



(3) 若い世代との交流への参加状況 (Q16-2)

「あなたは、若い世代との交流の機会があった場合、どうされていますか」と尋ねたところ、総数では「できるかぎり参加している」が34.0%で最も高く、以下、「全く参加していない」が29.5%、「あまり参加していない」が24.1%、「積極的に参加している」が9.2%となっている。

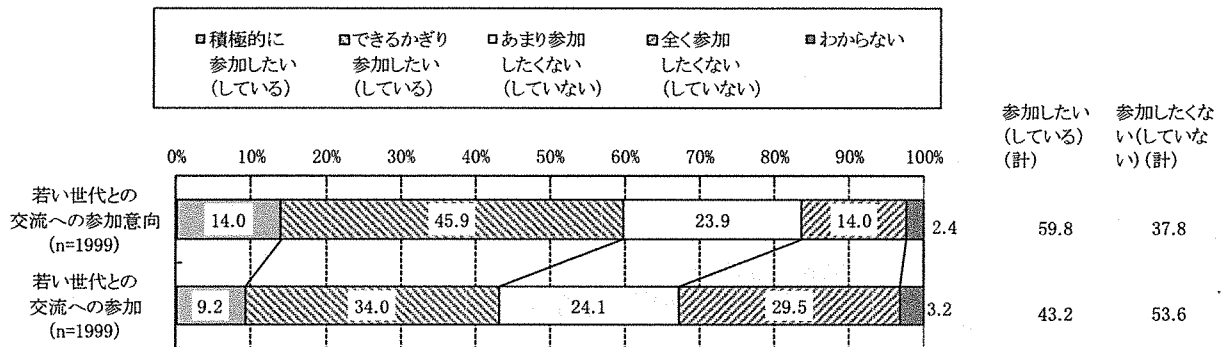
図4-3① 若い世代との交流への参加状況 (Q16-2)



若い世代との交流への参加状況と若い世代との交流への参加意向

若い世代との交流への参加意向と参加状況をみると、「参加したい（計）」は59.8%であるが、「参加している（計）」は43.2%となっている。

図4-3② 若い世代との交流への参加意向（Q16-1）と若い世代との交流への参加状況（Q16-2）



若い世代との交流への参加意向と参加状況をみると、参加意向で「積極的に参加したい」と回答した人では「参加している（計）」は77.1%となっている。一方で、参加意向で「積極的に参加したい」と回答した人で「参加していない（計）」は20.8%となっている。

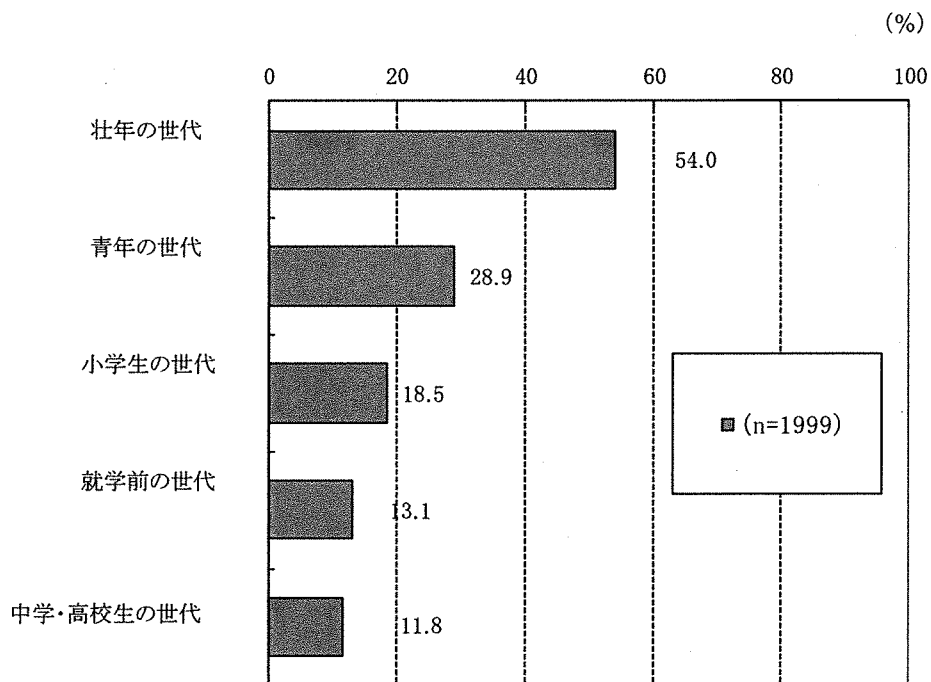
表4-3② 若い世代との交流への参加意向（Q16-1）と若い世代との交流への参加状況（Q16-2）

	総数	積極的に参加している	できるかぎり参加している	あまり参加していない	全く参加していない	わからない	参加している (計)	参加していない (計)
【総数】	1999	9.2	34.0	24.1	29.5	3.2	43.2	53.6
Q16-1 【若い世代との交流の意向】								
積極的に参加したい	279	49.5	27.6	11.1	9.7	2.2	77.1	20.8
できるかぎり参加したい	917	4.4	59.8	19.4	14.6	1.9	64.1	34.0
あまり参加したくない	477	0.6	10.3	53.7	33.8	1.7	10.9	87.4
全く参加したくない	279	0.7	1.4	5.0	92.1	0.7	2.2	97.1
わからない	47	-	4.3	6.4	23.4	66.0	4.3	29.8
参加したい (計)	1196	14.9	52.3	17.5	13.5	1.9	67.1	30.9
参加したくない (計)	756	0.7	7.0	35.7	55.3	1.3	7.7	91.0

(4) 交流したい世代 (Q16—3)

「どのような世代と交流を行いたいと思いますか」と尋ねたところ、総数では「壮年の世代」が54.0%、「青年の世代」が28.9%、「小学生の世代」が18.5%、「就学前の世代」が13.1%、「中学・高校生の世代」が11.8%となっている。

図4-4 交流したい世代 (Q16—3 複数回答)



(5) 世代間交流推進のための必要条件 (Q17)

「あなたは、世代間の交流を促進するために、どのようなことが必要だと思いますか」と尋ねたところ、総数では「交流機会の設定」が31.7%で最も高く、以下、「高齢者が参加しやすくなるための交通機関の整備など」が28.9%、「世代間交流の世話役的リーダーの存在」が26.9%、「学校や老人福祉施設など公共施設の併設、開放」が23.2%などと続いている。

時系列にみると、「交流機会の設定」、「高齢者が参加しやすくなるための交通機関の整備など」、「世代間交流の世話役的リーダーの存在」が増加傾向にある。

図4-5 時系列にみた世代間交流のための必要条件 (Q17 複数回答)

